

国連生物多様性の10年日本委員会 「MY行動宣言5つのアクション」

日常の暮らしの中から、
都市生活と自然のつながりを感じる

「生物多様性国家戦略2012-2020」を踏まえて



Feel Biodiversity

一般社団法人CEPAジャパン
2012

Feel Biodiversity

「生物多様性国家戦略2012-2020」概念図

はじめに 「MY行動宣言5つのアクション」で目指すもの

その1 都市生活と自然のつながりを感じる

その2 日常の暮らしの中で感じる

その3 各地で始まっている取組み

【目 標】

◆ 長期目標 (2050 年)

生物多様性の維持・回復と持続可能な利用を通じて、わが国の生物多様性の状態を現状以上に豊かなものとするとともに、生態系サービスを将来にわたって享受できる自然共生社会を実現する。

◆ 短期目標 (2020 年)

生物多様性の損失を止めるために、愛知目標の達成に向けたわが国における国別目標の達成を目指し、効果的かつ緊急な行動を実施する。

【自然共生社会における国土のグランドデザイン】

100 年先を見通した自然共生社会における国土の目指す方向性やイメージを提示

【5つの基本戦略】…2020 年度までの重点施策

- 1 生物多様性を社会に浸透させる
- 2 地域における人と自然の関係を見直し、再構築する
- 3 森・里・川・海のつながりを確保する
- 4 地球規模の視野を持って行動する
- 5 科学的基盤を強化し、政策に結びつける

第2部：愛知目標の達成に向けたロードマップ

- 「13 の国別目標」とその達成に向けた「48 の主要行動目標」
- 国別目標の達成状況を把握するための「81 の指標」

第3部：行動計画

- 約 700 の具体的施策
- 50 の数値目標

愛知ターゲットの達成

(一人ひとりが「生物多様性」を理解し行動する)

「国連生物多様性の10年」で取り組む
生物多様性の「主流化」

生物多様性の「主流化」とは、
誰がどのような状態になることなのか？
(生物多様性国家戦略2012-2020を踏まえて考える)

「MY行動宣言5つのアクション」
「気づき」の機会を提供

自然資源とのつながりや、地域への郷土愛など、
日常の暮らしの中で感じる「自分ごと化」

その1 都市生活と自然のつながりを感じる

「自然共生社会における国土のグランドデザイン」から

Feel Biodiversity !

「自然共生社会における国土の特性に応じたグランドデザイン」

国土のグランドデザインの実現に向け、各地域をつなげていくデザインが必要。

日本の土地利用はモザイク状、各地域区分の配置は地域により異なるが、一つの考え方として、「流域」を基軸として、関連する地域を含む「流域圏」を一つのまとまりとして考えていく。

その際、「流域圏内」の人・もの・資源を活用し、健全な水循環や物質循環、生態系を保全・回復、水やエネルギー、食料の持続可能な供給、災害などに対しても強靱な社会を構築、国土の多様性と環境変化への強靱さを担保することを目指し、各地域区分のつながりを考えていく。

「流域圏」の構成要素となる7つの地域区分

- (1) 奥山自然地域..... 相対的に自然性の高い地域
- (2) 里地里山・田園地域..... (1)と(3)の間に位置する地域
- (3) 都市地域..... 人間活動が集中する地域
- (4) 河川・湿地地域..... 各地域を結ぶ生態系ネットワークの基軸となる水系
- (5) 沿岸域..... 海岸線を挟む陸域及び海域
- (6) 海洋域..... 沿岸域を取り巻く広大な海域
- (7) 島嶼地域..... 沿岸域・海洋域にある島々



奥山から里地里山・田園を経て、
都市生活をつなぐ河川や湿地、
そして沿岸、海洋、島嶼へと
流れはつながる理解を促す「流域思考」

日本の一級河川による109の流域圏



その2 日常の暮らしの中で感じる

「普及広報と国民的参画、市民の役割」から

Feel Biodiversity !

【普及広報と国民的参画(具体的施策)】

UNDB-Jにおいて、効果的な**CEPA**(Communication, Education & Public Awareness)活動を行っていくため、「地球いきもの応援団」、「**MY行動宣言**」、「グリーンウェイブ」、各種ツール・アイテム等の把握・評価・開発・活用(UNDB-J 推薦図書等)、広報誌の発行など、さまざまな主体への働きかけを実施。

普及と実践

第1節 生物多様性の主流化の推進

【市民の役割】

一人ひとりが生物多様性との関わりを**自分の生活の中でとらえることが求められる。**

例えば、旬のものを「**味わう**」、自然や生きものに「**ふれる**」、自然の素晴らしさを「**伝える**」、保全活動に「**参加する**」、環境配慮商品を「**買う**」といった、

生物多様性を守るための「**MY行動宣言5つのアクション**」(国連生物多様性の10年日本委員会)を日常の暮らしの中で実行に移していくことが重要。

第1部 生物多様性の保全及び持続可能な利用に向けた戦略

第4章 生物多様性の保全及び持続可能な利用の基本方針

第3節 各主体の役割と連携・協働

日常の暮らしの中で感じるキッカケ「MY行動宣言5つのアクション」



こくれんせいふつたようせい ねん に ほん いんかい
国連生物多様性の10年日本委員会

せいふつたようせい まも わたし
生物多様性を守るために、私たちにできるアクション！

マイ こう どう せん げん
MY行動宣言

せいふつたようせい い
生物多様性とは、たくさんの生きものがつながりあって暮らしていること。

せいふつたようせい まも く なか い
生物多様性を守るためには、まずは暮らしの中で、生きものとのつながり
を感じることが大切。水や空気はもちろん、食べものや着るものの材料、
木材、薬の原料など、いろいろな生きもののおかげで、私たちは生きてい
ます。

つぎ なか まら マイ こうどうせんげん
次の5つの中からあなたにできることを選んで「MY行動宣言」しましょう。

せいふつたようせい めぐ う つづ ひど マイ こうどうせんげん
生物多様性の恵みを受け続けられるように、一人ひとりが「MY行動宣言」
をして、今日から行動しましょう！

チェック
してね！ 

Act 1  **Act 1**  **じもと** **たべよう** **じもと** **たべよう**
地元でとれたものを食べ、
旬のものを**味わいます**。

Act 2  **Act 2**  **なま** **しぜん** **たいけん** **どうぶつえん** **しょくぶつえん**
生の自然を体験し、動物園・植物園などを
訪ね、自然や生きものに**ふれます**。

Act 3  **Act 3**  **しぜん** **すば** **きせつ** **うつ**
自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、
写真や絵、文章などで**伝えます**。

Act 4  **Act 4**  **生きもの** **しぜん** **ひと** **ぶんか**
生きものや自然、人や文化との「つながり」を
守るため、地域や全国の活動に**参加します**。

Act 5  **Act 5**  **エコマーク** **かんきょう** **やさ** **しょうひん**
エコマークなどが付いた環境に優しい商品
を選んで**買います**。

● **お住まいの都道府県**

● **性別** ☐ 男 ☐ 女

● **年齢** ☐ 10代未満 ☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代
 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代以上

愛知ターゲット



ツール(MY行動宣言)と
プロジェクトの
組み合わせで、
暮らしの気づきから
愛知ターゲット達成へ

「日常の行動」

その3 すでに始まっている様々な取組み

委員会メンバーを始めとする取組み事例から

Feel Biodiversity !

「FSC森林サミット2012inはままつ」配布資料

運営部会委員 小倉厚子さん
(オレンジページ代表取締役社長)
11月3日「オレンジページ大感謝まつり」
(1,200枚を配布予定)

UNDB-J委員・地球生きもの応援団 イルカさん
10月20日
IUCN親善大使イルカさんコンサート
(2,200枚を配布)

地球生きもの応援団 さかなクン
10月14日
さいたま市環境フォーラム講演会
(500枚を配布)



委員会メンバー 一般財団法人 自然公園財団



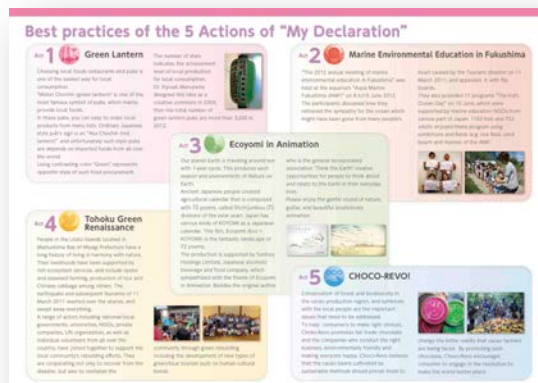
写真：日光湯元ビジターセンター



写真：箱根ビジターセンター

2012年9月から実施中

- 1, COP11会場で配布、CEPAフェアで発表(英語版500枚制作350枚配布)
- 2, 浜松市森林サミット講演会、東京都環境学習講座(110枚回収/150枚配布)
- 3, Nacot 新宿御苑自然アート展、日比谷公園自然観察会(400枚配布)
- 4, ヨコハマbデイ2012(150枚配布)



委員会メンバー 自治体ネットワーク 山口、さいたま、横浜



山口市



さいたま市



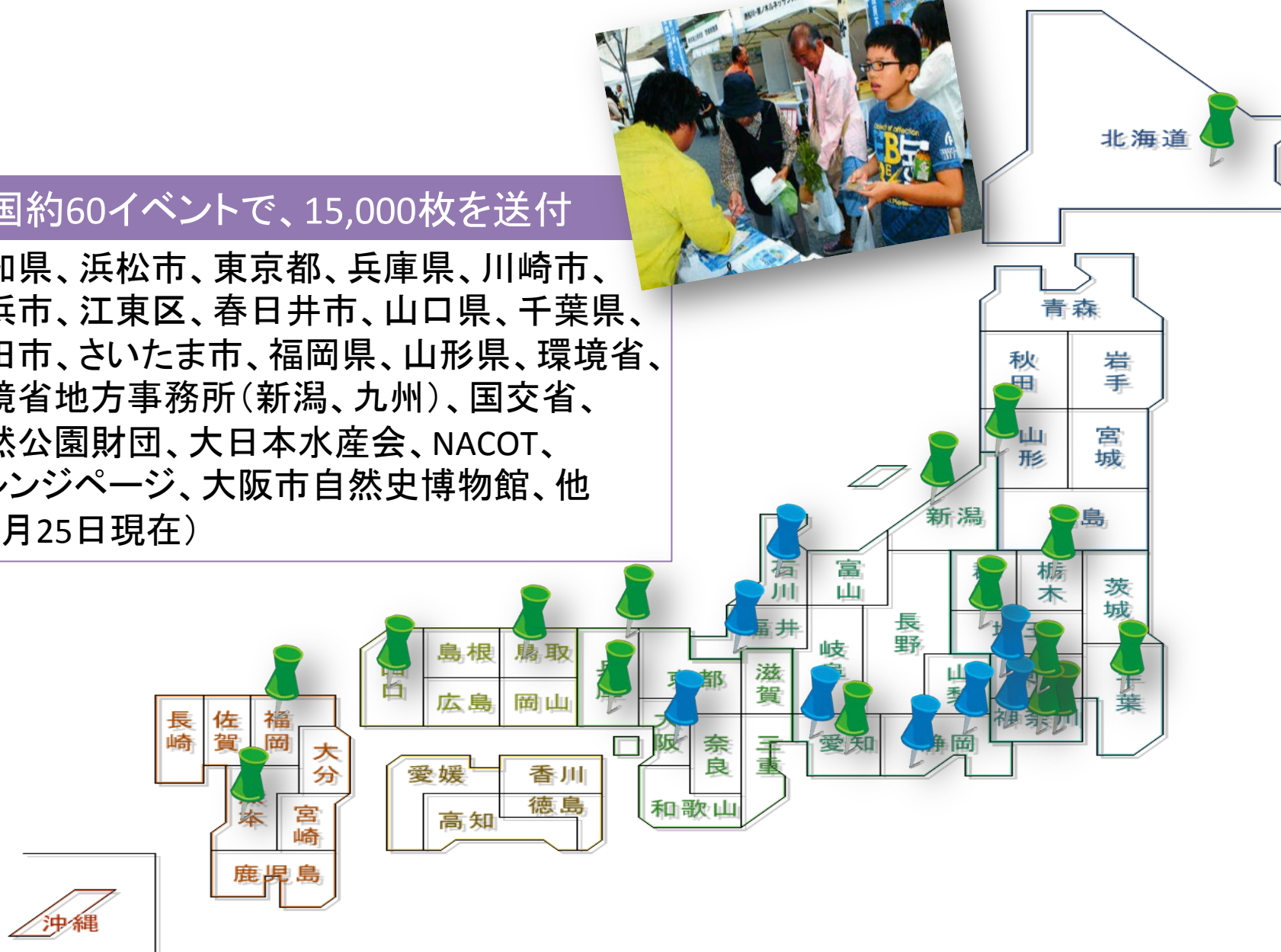
横浜市

各地で始まった「MY行動宣言5つのアクション」!



全国約60イベントで、15,000枚を送付

愛知県、浜松市、東京都、兵庫県、川崎市、
横浜市、江東区、春日井市、山口県、千葉県、
豊田市、さいたま市、福岡県、山形県、環境省、
環境省地方事務所(新潟、九州)、国交省、
自然公園財団、大日本水産会、NACOT、
オレンジページ、大阪市自然史博物館、他
(10月25日現在)



「MY行動宣言5つのアクション」の活用で、

奥山から里地里山・田園、河川や湿地、
そして沿岸、海洋、島嶼をつなぐ「流域思考」から、
都市生活と自然とのつながりを感じる。

旬のものを「味わう」、自然や生きものに「ふれる」、
自然の素晴らしさを「伝える」、保全活動に「参加する」、
環境配慮商品を「買う」といった行動から、
暮らしの中で自然とのつながりを感じる。

生物多様性の「自分ごと化」＝生物多様性の主流化

2011 国連生物多様性の10年日本委員会
生物多様性を守るために、私たちにできるアクション!

MY行動宣言

生物多様性とは、たくさんの生きものがつながりあって暮らしていること。
生物多様性を守るためには、まずは暮らしの中で、生きもののつながりを感じることが大切。水や空気はもろろん、食べものや着るものの材料、木材、薬の原料など、いろいろな生きもののおかげで、私たちは生きています。

次の5つの中からあなたにできることを選んで「MY行動宣言」しましょう。
生物多様性の恵みを受け続けられるように、一人ひとりが「MY行動宣言」をして、今日から行動しましょう!

Act 1 地元でとれたものを食べ、旬のものを**味わいます**。

Act 2 生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものに**ふれます**。

Act 3 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで**伝えます**。

Act 4 生きものや自然、ひとや文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に**参加します**。

Act 5 エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで**買います**。

●お住まいの都道府県

●性別 ☐ 男 ☐ 女

●年齢 ☐ 10代未満 ☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代以上

生物多様性の自分ごと化ツール
「MY行動宣言5つのアクション」

国連生物多様性の10年日本委員会
事務局までご連絡ください